

5/22(木) 国会議員への上映会 開催



衆議院第一議員会館の国際会議室で、超党派の国会議員の呼びかけでSAYAMA 上映会が開催されました。

国会議員、秘書の方、部落解放同盟の役員、狭山弁護団長の中山武敏弁護士そして市民、70名が参加しました。

51年目の 5/23(金) 次は狭山だ！



1963年5月23日、石川一雄さんは逮捕されました。51年目のこの日、石川一雄さんは、日比谷公園野外音楽堂で開かれた狭山事件の再審を求める市民集会で、3000人を超える支援者を前に「一日も早い再審決定を！」とアピール。

再審決定となった袴田巖さんも一緒に壇上に立ち、次は狭山だ！の思いをひとつにしました。

5/24(土) 東京多摩地域 連続上映“武蔵野”大盛況！



金聖雄監督のおひざ元、東京都武蔵野市のスイングホールでの上映会は2回上映で300人を超える方々に来ていただきました。

金監督は武蔵野に住んで25年、子育てをした街、親同士のつながりも強く、飲み友達も多い。そんな友人たちが、この日に向けて様々な準備を進めてきてくれました。その甲斐あって会場は満員、金監督も満面の笑顔。上映会終了後は地元の人たちと乾杯！夜遅くまで、飲み続けたとのこと。

ひと

「狭山事件」を題材にした映画を撮った監督

キム ソンウン
金 聖雄 さん(50)

* 朝日新聞
「ひと」欄



51年前に埼玉県で女子高校生が殺された狭山事件。無期懲役の判決を受け、仮釈放中の石川一雄さん(75)と妻早智子さん(67)の日常を追った。「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」。無実を訴え続けて半世紀。切ないほどの強い願いを静かに描いた。月末、東京で映画館上映が始まる。人権ビデオの制作で2010年

に出会ったのがきっかけ。「ホンマはどないやねん」。訪ねる前は正直そんな気持ちもあったが、「人生に悔いなし」と笑う姿に魅せられた。なぜそんなことが言えるのか。丁寧に時間を重ねた。

大阪・鶴橋生まれの在日韓国人2世。ロックやサーフィンに熱を上げる一方で、日本人でも韓国人でもない自分は何者か、と自問し続けた。吹っ切れたのは、幼なじみの日本人と26歳で結婚し、子どもができてから。「在日だからこうあらねば、じゃなくて、生きていく中で違うと思ったことにきちんと向き合っていく」と。

フリーでテレビ番組などを手がけてきた。「生活を考えると番組作った方がいいんやけど」と言うが、3年かけて自主制作した。

「殺人犯」として31年獄につながれ、いまも闘いの中にある石川さんの生活は苦難の連続。だが、カメラの前の夫妻は「幸せそうに」見えた。「人生とは。生きる」とは。夫婦とは。正義とはどういうことなのか考えてもらえたら」

文・大久保真紀 写真・早坂元興

SAYAMAは、昨年10月31日の日本教育会館での完成上映会を皮切りに、自主上映会を全国各地で展開してきました。

一般的には、映画は完成すると映画館上映から始まり、全国での映画館上映が一巡してから自主上映へと展開していきます。SAYAMAはその逆でした。SAYAMAは、狭山と石川一雄に思いを寄せる人たちのカンパによって製作されました。その人たちとともに、上映をすすめていきたいと思ったからです。そして、この6ヶ月、41都道府県、206か所で自主上映会は開催されました。そのスピードと広がりには予想を超えるものでした。自主上映会開催に努力いただいたみなさまにあらためてお礼申し上げます。そして、この勢いを映画館上映につなげ、更に多くの人たちにSAYAMAをみていただきたいと思ひます。

もちろん、これからも自主上映も積極的に進めていきます。自主上映と映画館上映の相乗効果で、全国にSAYAMAの風を！

* 週刊金曜日 5月23日号表紙



自主上映会に加え、 全国に映画館上映をひろげよう